

図書館だより



2019年2月
竜王北中学校
図書館



春よ、来い!



立春を過ぎ、まだまだ朝晩の寒さは続くものの、日は長くなり、季節は着実に春へと近づいています。3年生は卒業まであと1ヶ月となりました。春からの進路に向け、日夜頑張っていることと思います。

また、1・2年生もふるさと探訪や修学旅行へ向け事前学習を重ね、期待をふくらませていることでしょう。春には学習した成果が発揮できるよう、今、行っている学習を大切にしましょう!

図書館から応援しています♪

貸し出し期間のお知らせ☆3年生のみなさんへ☆



3年生の3学期の貸し出しは2月22日(金)までです!

竜王北中学校の図書館を利用することができるのもあと少しです。積極的に利用してくださいね!

3年生 → 貸し出し期間・・・2月22日(金)まで

返却期間・・・2月25日(月)から3月1日(金)まで

※返却期間内に3年生全員が借りている本を返却するようにしましょう!

2019年本屋大賞/ミネート作品発表 (作品名五十音順)

本屋大賞では、一次投票を昨年11月1日より本年1月6日まで行い、全国の493書店、書店員623人の投票がありました。その集計の結果、上位10作品が「2019年本屋大賞」ノミネート作品として決定しました!図書館にも置いてあるので読んでみよう♪

『愛なき世界』三浦しをん(著)中央公論新社

『ある男』平野啓一郎(著)文藝春秋

『さざなみのよる』木皿泉(著)河出書房新社

『そして、バトンは渡された』瀬尾まいこ(著)文藝春秋

『熱帯』森見登美彦(著)文藝春秋

『ひと』小野寺史宜(著)祥伝社

『ひとつむぎの手』知念実希人(著)新潮社

『火のないところに煙は』芦沢央(著)新潮社

『フーガはユーガ』伊坂幸太郎(著)実業之日本社

『ベルリンは晴れているか』深緑野分(著)筑摩書房

『ひとつむぎの手』 知念実希人著

大学病院で過酷な勤務に耐えている平良祐介は、医局の最高権力者・赤石教授に、三人の研修医の指導を指示される。彼らを入局させれば、念願の心臓外科医への道が開けるが、失敗すれば…。さらに、赤石が論文データを捏造したと告発する怪文書が出回り、祐介は「犯人探し」を命じられる。個性的な研修医達の指導をし、告発の真相を探るなか、怪文書が巻き起こした騒動は、やがて予想もしなかった事態へと発展していく。

『そして、バトンは渡された』

瀬尾まいこ著

継父継母が変われば名字も変わる。血の繋がらない親の間をリレーされ、四回も名字が変わった森宮優子、十七歳。けどいつでも両親を愛し、愛されていた。「私には父親が三人、母親が二人いる。家族の形態は、十七年間で七回も変わった。でも、全然不幸ではないのだ。」

身近な人が愛おしくなる、優しい物語。

『愛なき世界』 三浦しをん著

恋のライバルが人間だとは限らない!洋食屋の青年・藤丸が慕うのは「植物」の研究に一途な大学院生・本村さん。殺し屋のごとき風貌の教授やイモを愛する老教授、サボテンを栽培しまくる「緑の手」をもつ同級生など、個性の強い大学の仲間たちがひしめき合い、植物と人間たちが豊かに交差する――

本村さんに恋をして、どんどん植物の世界に分け入る藤丸青年。小さな生きものたちの姿に、人間の心の不思議もあふれ出し……風変わりな理系の人々とお料理男子が紡ぐ、美味しくて温かな青春小説。